

第5回 DIA Health Economics and Outcomes Research (HEOR) ワークショップ

変容するヘルスケアの未来における新世代のアウトカムリサーチとは
～デジタル産業革命のうねりと製薬産業の持続可能性～

2022年11月16日(水) 13:00～17:00
Zoom開催 (Meeting)

プログラム概要

第4次産業革命とされるSociety5.0構想では、常時接合したビッグデータから人工知能(AI)が情報を抽出し、リアルタイム予防健診や最適治療促進などの利益を享受できる社会を目指しています。得られるデータソースは多様化し、ウェアラブル機器はネット(IoT)を介して、バイタルサインや睡眠リズムだけでなく、運動や生活習慣もデータとして統合することが可能になります。すでに様々なプラットフォームが構築段階にあり、「未病」データから疾患の発症・進行を予測することができれば、将来は病気の治療ではなく「病気を予防する価値」が、より重要になるのかもしれませんが。さらには、デジタルトランスフォーメーションを含めた次世代技術で医師・医療スタッフの負担を削減することができれば、「持続可能な医療体制への貢献」という価値についても議論する必要があるのではないのでしょうか。

製薬会社においては現在、HEORが観察研究やリアルワールドデータからエビデンスを創出する研究活動を担っています。また、HEORはHTA(HealthTechnology Assessment)での薬価調整に用いる費用効果分析の管轄であることもあります。さらに、変革するヘルスケア社会では、価値の多様化とデジタル技術の進展に伴って、HEORがより早期段階から臨床開発や創薬研究部門と緊密に連携する役割も期待されるでしょう。

そこで、今回のワークショップでは、変容するヘルスケアの将来像をマクロ/ミクロな視点からとらえ、製薬産業の課題と、HEORのあるべき方向性について考える機会を設定いたしました。医薬品・医療機器企業のHEOR、臨床開発、薬事、薬価担当の方、製薬企業と協働されているアカデミアの方、政府関係者など、一人でも多くの皆様のご参加をお待ちしています。

参加対象者

このプログラムは下記に従事されている方に特に有益です。

製薬企業・医療機器企業

- ・メディカルアフェアーズ担当者/アウトカム研究担当者/薬価担当者/開発担当者/薬事担当者/安全性担当者

中央官庁・規制当局

研究者

- ・医療経済学者/疫学研究者/臨床研究者

後援：ISPOR日本部会

講演及びディスカッションはすべて日本語資料及び日本語のみで行い、通訳はつきません。



プログラム委員長

アッヴィ合同会社
小串 健太郎

プログラム委員

日本イーライリリー株式会社
荒西 利彦

ヤンセンファーマ株式会社
廣實 万里子

中外製薬株式会社
大野 慎也

ノバルティスファーマ株式会社
宇田 晃仁

慶應義塾大学
漆原 尚巳

大塚製薬株式会社
山戸 健太郎

バイエル薬品株式会社
吉原 圭亮

塩野義製薬株式会社
吉田 真奈美

オペレーションチーム

アステラス製薬株式会社
河西 勇太

ノバルティスファーマ株式会社
西岡 明子

プログラムアドバイザー

塩野義製薬株式会社
廣居 伸蔵

DIA volunteers, members, and staff provide a comprehensive catalogue of conferences, workshops, training courses, scientific publications, and educational materials, throughout the year, all around the world.



DIA Japan
Nihonbashi Life Science Building 6F,
2-3-11 Nihonbashihoncho, Chuo-ku, Tokyo 103-0023 Japan
Tel: +81.3.6214.0574 Fax: +81.3.3278.1313 Email: Japan@DIAGlobal.org

Drug Information Association

Global Center: Washington, DC | Americas | Europe, Middle East & Africa | China | Japan | India

DIAGlobal.org

13:00-13:15 開会の挨拶

一般社団法人 ディー・アイ・イー・ジャパン
TBD

プログラム委員長/アツヴィ合同会社
小串 健太郎

13:15-14:25 講演 ※各講演後のQ&A含

座長
アツヴィ合同会社
小串 健太郎

13:15-13:50**デジタル技術の進展と医療ヘルスケアのパラダイムシフト**

Meiji Seika ファルマ株式会社

佐々木 隆之

デジタル技術の急速な進展は、層別化や個別化の進展、感性科学や行動変容の応用、デジタル治療の登場、ライフコースデータの収集・利活用など、医療ヘルスケアとその関連産業にパラダイムシフトをもたらしている。本講では、予防や治療への活用が期待されるデジタルヘルスやデジタル治療の潮流について紹介するとともに、データ駆動型医療ヘルスケアを実現するための道筋について考える。

13:50-14:25**政策から見るヘルスケアの課題と次世代医療技術の方向性**

一般社団法人米国医療機器/IVD工業会

笠原 真吾

技術の発展著しい現代、デジタルセラピューティクスをはじめとする様々な新しい医療技術が開発されているが、課題解決に役立つ医療技術こそ臨床現場に受け入れられ定着するものだ。そこで、現在及び近い将来のヘルスケアの課題を把握するため、電子カルテ情報の標準化や医師の働き方改革など、進展中の政策に着目して、その背景や引き起こされる変化について考察し、求められる次世代医療技術の方向性を見定めるよう試みる。

14:25-15:00**医療データと価値評価 – スモールなビッグデータの価値とは –**

横浜市立大学
五十嵐 中
TBD



第7回DIA再生医療製品・遺伝子治療用製品シンポジウム
再生医療製品・遺伝子治療用製品開発の進歩
～初心に立ち返る～

Register Today!

2022年12月15日(木)～16日(金)
ハイブリッド開催 | KFC Hall (両国)およびオンライン

DIA

15:00-15:35

オープンイノベーションを基盤としたデータ駆動型新well-being社会システムの実現

弘前大学 健康未来イノベーション研究機構

村下 公一

弘前大学では日本一の短命県という社会課題解決のためこれまで18年にわたり弘前市岩木地区で大規模住民健診を実施し、世界に類例のない健常人の超多項目(3000)健康ビッグデータを収集・蓄積してきた。文部科学省革新的イノベーション創出プログラム(COI)の採択を受け(2013)、AIを駆使した健康ビッグデータ解析による革新的な疾患予兆法・予防法の開発、この成果を活かした社会実装に向けての取組を大手有力企業らと共に展開している。市民や企業、大学、国研等を含む産学官金民すべてのステークホルダーがそれぞれの活動を多様に展開し、健康研究及び健康増進活動のオープンイノベーション・プラットフォームをリアルに構築した。次なるステージでは、世界初の包括的なリアルワールドデータ群を基盤に、健康を基軸とした「新経済循環」と「全世代アプローチ」、ヘルスケア・デジタルツイン実装で、Society5.0の世界観を具現化する新たな健康未来イノベーション戦略を展開する。

15:35-15:50 ショートブレイク

15:50-16:40 チャットングセッション

イントロダクション

日本イーライリリー株式会社

荒西 利彦

大塚製薬株式会社

山戸 健太郎

※「HEORを知ろう!話そう!」をテーマに、いくつかのグループに分かれて話し合い、意見交換いただきます。

16:40-16:50 総括

総括

横浜市立大学

五十嵐 中

塩野義製薬株式会社

廣居 伸蔵

16:50-17:00 閉会の挨拶

神奈川県立保健福祉大学

昌子 久仁子

DIAのプログラムにて発表される内容は発表者本人の見解であり、所属する組織あるいはDIAのものとは限りません。プログラム及び講演者は予告なく変更される場合があります。書面による事前の合意なく、DIAのプログラムの情報を録音もしくは撮影することは、いかなる形態であっても禁止されています。